新発生害虫トマトキバガについて

農研機構植物防疫研究部門
基盤防除技術研究領域
海外飛来性害虫・先端防除技術グループ
真田幸代

トマトなどナス科作物の重要害虫トマトキバガ *Tuta absoluta*（写真）は南米原産で、2006 年にスペインへの侵入が確認されて以来、ヨーロッパ、アフリカ、中央アジア、東南アジアに分布を拡大し、2017 年には中国の新疆ウイグル自治区など、東アジアでも発生が確認された。2020 年には台湾のトマト栽培施設で発生が確認され、現在まで発生が続いている。そのため、日本への侵入が警戒されていたところ、2021 年 10 月に熊本県内のトマト栽培施設内で、幼虫及び成虫が本邦初確認された。続いて同年 12 月に宮崎県のトマト栽培施設で成幼虫が確認された。さらに、翌 2022 年 3 月には鹿児島県、大分県、福岡県、4 月には長崎県で、野外に設置したフェロモントラップに成虫雄が誘引され、各県から特殊報が発表されている。現在のところ、栽培施設内で発生が確認された熊本県、宮崎県においては、収穫終了後の発生であったことなどから栽培作物への商業的被害はなく、また、他の 3 県では栽培作物での発生は確認されていない。しかし、今後も分布の拡大には警戒が必要で、栽培作物に発生が確認された場合には、現在本種に適用のある登録農薬はないため、植物防疫法第 29 条 1 項に基づく措置として使用が許可されている農薬で防除を実施することになる。国内での発生生態、移動生態、野生寄主など未解明な部分があることから、今後、本種に関する研究を実施していく予定である。そこで本講演では、海外文献などから収集した本種の生態的情報を紹介するとともに、ヨーロッパや台湾での発生状況や各地域で推奨されている防除対策を紹介する。

写真１：トマトキバガ
Tuta absoluta（Meyrick）
チョウ目キバガ科 *Tuta* 属
成虫：体長　約　6 mm
　　開張　約 10mm

写真２：トマト葉の加害痕